

三島  
日本大学

# 同窓会々報

第 22 号

平成 3 年 11 月 3 日  
静岡県三島市文教町 2  
日本大学三島同窓会発行



第40回富桜祭

平成三年度

## 常任幹事会・幹事会開催

### ◎常任幹事会

平成三年六月二十八日(金)十七時から、母校八号館二階において開催され、幹事会、総会開催の件、会報発行、開設五十周年記念事業等の事項について審議された。

### ◎幹事会

平成三年六月二十八日(金)十八時から、母校八号館二階において開催された。

会は久保田勝氏の司会で進められ、宮沢主計会長の挨拶の後、議長団、書記が選出され、議長に山内茂氏、副議長に久保田博明氏、書記に関野幹雄氏、片村則子氏を選出し、次の事項が審議された。

### 議 事

- 一、平成二年度事業報告
- 一、平成二年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成三年度事業計画案
- 一、平成三年度予算案
- 一、平成四年度役員候補の件
- 一、開設五十周年記念事業について
- 一、各科活動状況報告
- 一、その他

事業報告・事業計画案は角田義廣事務局長の代行で、佐野勝己庶務担当常任幹事から、決算・予算案は土屋忠得会計担当常任幹事の代行で、宮川守常任幹事から説明、続いて監査報告を持田光雄会計監査からそれぞれ説明された。

次に平成四年度役員候補の件について審議され、次期会長には宮沢主計氏が再任、事務局長に佐野

勝己氏、現事務局長である角田義廣氏を常任幹事とのことで、役員任期を二年に延ばすことの提案があり、会則変更を含め幹事会案とした。

また、開設五十周年記念事業について、準備委員会委員長西村美枝子顧問から説明があり具体的な内容は学校側と相談した上、決定する旨の報告があった。各科活動状況報告は何もなく終会した。幹事会に続いて懇親会が同会場にて盛大に行われた。



### ◎会長賞授与式

平成三年四月九日(火)開講式当日、三島同窓会長賞(副賞奨学金)が宮沢会長から三名の学生に授与された。

# 第五代会長就任に当たって



三島同窓会長 宮澤 主計

## ◇同窓会に思うこと

私が三島キャンパスに学んだ頃は、昭和二十年代。校舎は木造で兵舎跡であり、校庭も背高泡立草が一面に茂り、現在の姿からは想像も出来ない状態であった。その後、東京の学部を出てから、学園には同窓会役員として顔を出すようになったが、年々変貌を遂げ、現在、大学院を擁するまでに発展をしている。それは、学園草創期に掲げられた建学の精神が、脈々と受け継がれ、今日に至っている結果であると思う。

我が同窓会も、第四代までの会長を中心に、歴代の役員諸氏の力に与かって前進を続けて参っておりますが、総会をはじめ定期的な会合における会員の出席状況は、未だしの感を免れ得ません。古い教職員が多くが、亡くなられているという現実もありますが、打開策としては、例えば、総会通知の方法にマスコミを使うとか、幹事役の期を指定して行うとか、景品のつく数字合わせゲームを導入する

とか、いずれにしても、同窓会を如何にしたら今以上に活性化することが出来るかについては、此れこれという成案が出て来ないがこの辺で、原点となる会の目的「会員相互の親睦」と「母校の発展に寄与する」ことについて、もう一度考えてみたい。

会員相互の親睦とは、同窓会という会が本来的にもっているもので、同窓会はいわゆる仲良しクラブであり、同窓という同じ釜の中では、互いに人生の柵を背負っているように、先輩・後輩という時の流れに差があろうと、気持ちに通じあってしまう特長をもっている。したがって、そこに集うことに意味があるのである。大学が発展している精神を範として、同じ釜の中に定期的に身を任せてみようと思ってくれる同窓生が、一人でも多くなつて欲しいと切に願う次第である。

同窓会が母校の発展に寄与してきた実態は、ささやかではあるが、過去、八号館三階講堂にグラランドピアノを贈り、校庭に時計塔が

光っている。現在、学園五十周年記念に向けて、同窓会としてどういふ事業を行うかの、五十周年記念事業準備委員会が結成されており、先輩の西村美枝子準備委員長を中心に、何度か検討の会も開かれている。今回は、会員に広く寄付を募って、目的のものを大学に贈りたいと、九月にも東京で会合をもつた次第である。各期の幹事さんには、募金の事務等に格段のお力添えを乞うことになろうかと存じますので、その節はよろしくお願いしたい。

そこで、三島同窓会事務局専従者の必要性については、すでに会の了解事項となっており、早い機会に適任者を得たいものである。それと同時に、学部をもつて大

## ◇大学に思うこと

大学にとって、これから迎える十八歳人口の激減が続く「冬の時代」の対策は、いろいろ考えておられることと思われるが、その一つとして日大シンパの卒業生子弟に対する門戸を開くことを加え、その開き方について、真剣に検討してもらいたいと思う。この事により、大学の真価が問われる学問研究の水準が低下するとも思えないし、むしろ、各学部の特徴とする教育の在り方と、それを通して行われる人間形成の場の有様を、魅力のあるものにしてもらいたいのであり、教職員と学生の心の交流が行われる環境が、望ましい状態にあつて、送り出される卒業生が、多様化した社会の期待に応え得る人材に育つて欲しいと、切に希望する次第である。

次に応援団のことであるが、是非復活を望みたい。十月十日体育の日には、出雲全日本大学対抗ロードリレーが行われ日大は三位になったのであるが、その模様がテレビ放映されていた。OBと思われる方々が「がんばれ日本大学」という横断幕を持つて応援してくれていた。ただ、活気がないのである。駅伝といえど正月に、東京箱根間で行われるが、三島在住のK氏は、箱根町まで毎年欠かさず応援に出掛けられているのである。そこでの光景は、応援団がないため応援旗もなく、エールの交換も出来ず、一般の学生と職員はもとより、

OB諸氏も殆ど来ていない状態で、実に寂しい限りであるという。箱根に近い三島キャンパスの学生諸君は、学生団体を中心に応援に行ってもらいたいし、同窓会としても、応援旗を何本かつくる等の支援について、皆さんに諮りたいと思っている。

三つめは留学生の問題である。初代会長故種房 繁氏が、国際関係学部創設から四年目の昭和五十七年度に、学部に対する期待と構想の中で幾つか提言をしている。

1、大学院の設置 2、外国大学との単位互換制 3、留学生用の宿泊センターの建設 4、校友・地方有力者によるスカラシップの設定 5、同窓生子弟の入学問題

このうち、留学生の問題は、まず入学希望者がこれから漸増していくと思われるが、海外での出張入試を導入してこれに対応すべきと考える。次に、初代会長の構想にもあつたように、留学生のための近代的な設備をもつた宿泊センタの建設については、前向きに検討していただいて是非実現して欲しいと思うのである。

## ◇終わりに

終りになりましたが、浅学非才の身で任期内に何程の実績が残せるか分かりませんが、皆さんのご協力を得て、誠意をもって務めさせてもらうので、よろしく願ひたいしたい。

# 大学を卒業して想うこと

三島同窓会副会長 岩崎 一雄

## 一、日本大学への入学

大学への入学は普通に考えれば高校を卒業してそのまま大学というところが当たり前ですが、私は高校を卒業してそのまま就職し社会人となつたので、当時は大学進学などということは全然考えてもいなかった。しかし高校を卒業して丁度十年目の昭和四十三年の始め頃就職先の後輩が日本大学の二部に通学していることに刺激を受け急遽受験し入学を許された。時に年齢は二十八歳でした。それでも当時は昼間は仕事、夜は勉強という人達が多かり、年齢も私は上から三番目でした。私と同じように社会人になって或る程度経ってから入学した人も相当数いました。

昭和四十三年は丁度日本大学の学園紛争が勃発した時であり、三島学園をバリエードで封鎖されてしまい学園内では授業ができず、校外の近くの公民館とか集会所、お寺や神社などを臨時の教場として使用するためにあちこち方々を転々と移動したものである。そして八号館にはゲバ学生から建物を守るために我々が占拠して夜も寝泊りするために一年生の私達と先輩である二年生の皆さんで交替で番をしたものである。

その当時は東大を始めほとんどの大学で燎原の火のような勢いで紛争が起きていた。これもその時代の背景があり原因があつたため、紛争により結果として問題が曲りなりにも解決できたのであるから、やはり止むを得なかったのではなからうか。今振り返れば大変貴重な体験をさせていただき、そして

いい思い出をつくつていただいた。さらに同級生の皆さん、そして先輩の皆さんと長い間寝食を共にしながら苦勞して学んだことは何にも替え難い思い出である。

高校しか卒業していない私には大学はやはり憧れであった。大学を出ている人には実感としてわからないと思うが、高卒で社会人としての生活を十年も経験すると大学に異常に憧れるものである。とにかく大学の雰囲気味わう事ができた事は、ごく平凡に苦勞もな大学を卒業された人にはわからない大きな喜びである。そして日大に入学して多くの友人を得た事では生きていけない動物であるから毎日何人かの人と出会い何かをしている。そんな時に感ずるのが日大の卒業の人達と出会うことがかなり多いことである。日大同窓であるというだけでなんとなく気が許して話ができるものだから不思議なものである。これがマシモス日大の強みでもある。

## 二、学歴無用論

私の大学入学の動機は前にも述べたが後輩の向学心に刺激されたことと、もう一つ理由がある。それは税理士試験の受験資格が(1)大学二年以上終了であること。(2)実務経験五年以上であること。(3)特定の技能(日商簿記検定一級等)を所持していること。(4)一次試験に合格することの四条件になつてゐる。この四条件のどれかに該当しなければ税理士の試験を受けることが出来ない訳です。そこで第一番目の条件である大学二年以上

終了の者、つまり短期大学卒業であるならば、いかなる程度であらうとも一般教養としては修得しているというところで受験資格がある。短大卒でそれなりの能力があるのだから高校卒業の人達と一緒にのスタートラインである第一次試験から受験しても当然に合格できる筈だから、短大卒だけで差別化するのはいくらなんでも差別的の考えだつたのです。自分が高卒でそれを言っている限りは負け犬が吠えているに過ぎないので、それならば自分も短大を卒業してから主張すべきところは主張しようという気持ちで入学した次第です。単純に考えれば高卒の自分が大卒の人に対するコンプレックスだつたと思います。

実業界では、官公庁とか大企業では学園の弊害もあり、学歴の尊重もあつて私の考え方とは違つた運営が行われている。しかし中小企業で今時学園とか学歴尊重などと言つていたらどうなるでしょう。私の事務所でも五十名程の社員に働いてもらつているが、初任給についてのみ大卒・短大卒・高卒の差別はしているが、それが過ぎた二年目以降については基本的には生活給を中心としているが職能給については、やはり能力とか努力に応じた配分をするように心掛けてゐる。それが一番公平だと思つてゐる。世の中に平等などというものはあり得ない。人間には能力差、個人差があるものだから、それをいかなる尺度で公平に判断するかは非常に重要になつてくる。これからは学歴も年齢も男女差も、さらに履歴書さえもいなくなると時代が来るであらう。日本はど教育制度が充実している国はどこにもない。日本が経済大国になれたのも、日本独特の中

小企業の、があつたからこそ成し得たものである。私達も大学を卒業しただけでなく、さらなる発展を遂げるための努力をし、世のため人のために些かでも貢献できるようにになりたいものである。

## 学部祭のご案内

第41回学部祭は、「三島大陸大改造計画」をテーマに、後輩諸君が張り切つております。今年の学部祭実行委員は、総勢一五五名、委員長は国際関係学部三年高橋博樹君を核につくりあげた成果は、昨日から三日間にわたつて行われております。

## 記

- 十一月二日(出)
  - ・開会式 大講堂前
  - ・市中パレード 三島市内
  - ・ステージ・イベント 三島市内
  - ・九時三十分～十六時三十分 野外ステージ
  - ・討論会
    - 九時三十分～十六時 三三七教室
    - 基調「国際化における三島市と日大生の役割」
    - 講演 三島市長 奥田吉郎氏
    - 各演習学生による討論会
    - テーマ「外国人労働者について」
    - ・体育団体イベント
    - ・演武会
      - 小林寺拳法部 大講堂
      - 十五時～十七時
      - ・親善試合
        - バレーボール部 大講堂
        - 十二時～十五時
        - サッカー部 大講堂
        - 十二時～十七時
        - グラウンド
        - 十一月三日(日)
- 十一月三日(日)
  - ・ステージイベント 野外ステージ
  - ・九時三十分～十六時三十分 野外ステージ
  - ・親善試合
    - ラグビー部 本館前
    - 十三時～十五時
    - サッカー部 グラウンド
    - 十時～十二時
    - ・コンサート
      - 十六時～十八時 大講堂
      - 出演 ゴーパンズ
      - ・十一月四日(月)
      - ・ステージイベント
        - 九時三十分～十六時三十分 野外ステージ
        - ・演武会
          - 剣道部 大講堂前
          - 十二時～十四時
          - 空手部 大講堂
          - 十四時～十六時
          - ・親善試合
            - バスケットボール部 大講堂
            - 十時～十二時
            - 日本拳法部 大講堂前
            - 十時～十二時
            - アメリカンフットボール部 大講堂前
            - 十三時～十五時
            - ・セミナー発表会
              - 十時～十六時三十分 一三三七教室
              - ・開会式
                - 十七時 野外ステージ
                - ・アトラクション
                  - 十一月二日(出)
                    - ダンス 大講堂前
                    - 十三時～十五時
                    - スキー 十三号館北側通路
                    - 十一月三日(日)
                      - ダンス 大講堂前
                      - 十三時～十四時
                      - ボクシング 第五体育館
                      - 十三時～十五時
                      - 十一月四日(月)
                        - ダンス 大講堂前
                        - 十三時～十五時
                        - スキー 十三号館北側通路
                        - 十三時～十四時

# 平成3年度役員

(平成2.11.3改選)

|                |                |         |      |               |         |    |       |         |
|----------------|----------------|---------|------|---------------|---------|----|-------|---------|
| 顧問             | 西村 満男          | (21~23) | 常任幹事 | 榎本 睦美         | (45・46) | 幹事 | 長谷川駿一 | (23~25) |
| 顧問             | 西村美枝子<br>(長谷川) | (22~24) | 常任幹事 | 西野 和衛<br>(望月) | (46・47) | 幹事 | 徳増 清二 | (23~25) |
| 顧問             | 中嶋 信行          | (23~25) | 常任幹事 | 江本 博勝         | (46・47) | 幹事 | 石野 進  | (23~25) |
| 顧問             | 奥田 吉郎          | (23~25) | 常任幹事 | 宮川 守          | (47・48) | 幹事 | 石垣 恭弘 | (23~25) |
| 顧問             | 見上 勇逸          | (27・28) | 常任幹事 | 沼上 博美<br>(伊出) | (48・49) | 幹事 | 井上 忠彦 | (23~25) |
|                |                |         | 常任幹事 | 関野 幹雄         | (48・49) | 幹事 | 細田 昭次 | (23~25) |
| 会長             | 宮沢 主計          | (25・26) | 常任幹事 | 大島 裕二         | (52・53) | 幹事 | 杉山 吉房 | (23~25) |
| 副会長            | 渡辺 勝一          | (26・27) | 常任幹事 | 斎藤 聡          | (54~57) | 幹事 | 深沢 昭八 | (23~25) |
| 副会長            | 鈴木 邦良          | (27・28) | 常任幹事 | 小澤里佳子         | (57・58) | 幹事 | 服部 房夫 | (23~25) |
| 副会長            | 平井 千枝          | (34・35) | 常任幹事 | 野田 正人         | (62・63) | 幹事 | 芦澤 克治 | (24~25) |
| 副会長            | 高田 菊平          | (36)    | 会計監査 | 持田 光雄         | (32・33) | 幹事 | 石川 進  | (25・26) |
| 副会長            | 山田 浩子          | (41・42) | 会計監査 | 中島 敏男         | (30・31) | 幹事 | 矢沢 知秋 | (25・26) |
| 副会長            | 岩崎 一雄          | (43・44) |      |               |         | 幹事 | 長倉 祐作 | (25・26) |
| 副会長            | 宮下 公雄          | (54~57) |      |               |         | 幹事 | 宮崎 茂樹 | (25・26) |
|                |                |         | 幹事   | 高田日出太郎        | (21)    | 幹事 | 伊藤 悟  | (25・26) |
| 事務局長           | 角田 義廣          | (30・31) | 幹事   | 馬場 康夫         | (21・22) | 幹事 | 辻 省二  | (26・27) |
| 常任幹事<br>(庶務担当) | 久保田 勝          | (38・39) | 幹事   | 中野 繁          | (21~23) | 幹事 | 田村 実  | (26・27) |
| 常任幹事<br>(庶務担当) | 佐野 勝己          | (39・40) | 幹事   | 石垣 義親         | (21~23) | 幹事 | 浅原 好胤 | (26・27) |
| 常任幹事<br>(庶務担当) | 田中 由雄          | (42・43) | 幹事   | 小野 真一         | (21~23) | 幹事 | 宮崎 乾朗 | (26・27) |
| 常任幹事<br>(会計担当) | 土屋 忠得          | (40・41) | 幹事   | 米内 国夫         | (21~23) | 幹事 | 高橋 英明 | (26・27) |
| 常任幹事           | 木村 幸夫          | (23~25) | 幹事   | 澤 直和          | (21~23) | 幹事 | 荒川 通  | (26・27) |
| 常任幹事           | 白鳥 義仁          | (25・26) | 幹事   | 滝川 昇          | (22・23) | 幹事 | 岩永 勉  | (26・27) |
| 常任幹事           | 大井 徹也          | (26・27) | 幹事   | 中浜 卓弥         | (22~24) | 幹事 | 塩田 浩  | (26・27) |
| 常任幹事           | 鈴木 義樹          | (28・29) | 幹事   | 中塩 利雄         | (22~24) | 幹事 | 村野 静司 | (26・27) |
| 常任幹事           | 市川 紀子          | (37・38) | 幹事   | 北條 晃          | (22~24) | 幹事 | 光信 儔  | (26・27) |
| 常任幹事           | 小出 博           | (40・41) | 幹事   | 長田 涉          | (22~24) | 幹事 | 稲葉 昭  | (26・27) |
| 常任幹事           | 柴田 正           | (41・42) | 幹事   | 山内 茂          | (22~24) | 幹事 | 吉田 昭二 | (26・27) |
| 常任幹事           | 土屋 貞明          | (42・43) | 幹事   | 川口 正信         | (22~24) | 幹事 | 熊崎 文二 | (26・27) |
| 常任幹事           | 小早川隆義          | (42・43) | 幹事   | 小林 昭雄         | (22~24) | 幹事 | 興水 啓一 | (26・27) |
| 常任幹事           | 染谷 徳昭          | (42・43) | 幹事   | 金田 豊          | (23~25) | 幹事 | 廣田 均  | (26・27) |
| 常任幹事           | 渡辺 忠昭          | (42・43) | 幹事   | 松本 秀雄         | (23~25) | 幹事 | 栗原 恒夫 | (26・27) |
| 常任幹事           | 林田 孝二          | (43)    | 幹事   | 小林 栄三         | (23~25) | 幹事 | 黒滝 祐司 | (27・28) |
| 常任幹事           | 山口 良児          | (43・44) | 幹事   | 勝俣 敞充         | (23~25) | 幹事 | 小林 義尚 | (27・28) |
| 常任幹事           | 相田 信次          | (44・45) | 幹事   | 山本 康弘         | (23~25) | 幹事 | 佐藤 力男 | (27・28) |
| 常任幹事           | 鈴木 正八          | (44・45) | 幹事   | 森下 菊美         | (23~25) | 幹事 | 田村 栄一 | (27・28) |
| 常任幹事           | 山崎 光義          | (44・45) | 幹事   | 宝地 克哉         | (23~25) | 幹事 | 鈴木 稔  | (27・28) |
| 常任幹事           | 久保田博明          | (45・46) | 幹事   | 播本 弘          | (23~25) | 幹事 | 上野 実  | (27・28) |

|    |               |         |    |               |         |    |               |         |
|----|---------------|---------|----|---------------|---------|----|---------------|---------|
| 幹事 | 関本 文彦         | (27・28) | 幹事 | 濱田 義之         | (45)    | 幹事 | 宮下 正俊         | (39・40) |
| 幹事 | 真部 喜孝         | (27・28) | 幹事 | 高藤 省三         | (49)    | 幹事 | 瀬村 隆治         | (42・43) |
| 幹事 | 結城 勇一         | (27・28) | 幹事 | 河田 敏明         | (50)    | 幹事 | 吉田 力          | (44・45) |
| 幹事 | 高田 全司         | (27・28) | 幹事 | 滝本 博          | (53)    | 幹事 | 長倉 良幸         | (44・45) |
| 幹事 | 丸山富美雄         | (28)    |    |               |         | 幹事 | 前山 良光         | (45・46) |
| 幹事 | 小椋 貞夫         | (28・29) | 幹事 | 岩崎 尚枝<br>(伊藤) | (41・42) | 幹事 | 早川 清文         | (45・46) |
| 幹事 | 坂詰 正衛         | (28・29) | 幹事 | 小永井京子         | (43・44) | 幹事 | 菅野 利幸         | (45・46) |
| 幹事 | 望月 知林         | (28・29) | 幹事 | 平岩美知子<br>(金子) | (44・45) | 幹事 | 三枝 和彦         | (46・47) |
| 幹事 | 安東 安生         | (29・30) | 幹事 | 高橋真理子<br>(大場) | (44・45) | 幹事 | 天野 寿一         | (48・49) |
| 幹事 | 田嶋 文義         | (29・30) | 幹事 | 加藤 和代<br>(牧野) | (46・47) | 幹事 | 埜村 光伸         | (53・54) |
| 幹事 | 寺崎 哲郎         | (29・30) | 幹事 | 石井千枝子         | (46・47) |    |               |         |
| 幹事 | 関 哲男          | (29・30) | 幹事 | 古川 幾代         | (56・57) | 幹事 | 岩月 和男         | (40・41) |
| 幹事 | 林田 達郎<br>(中村) | (29・30) | 幹事 | 佐野 裕子         | (58・59) | 幹事 | 中山 義昭         | (41・42) |
| 幹事 | 森 伸夫          | (30・31) | 幹事 | 下山 恵子         | (58・59) | 幹事 | 渡辺 清          | (42・43) |
| 幹事 | 道見 俊廣         | (30・31) | 幹事 | 鍵山 美希<br>(清水) | (59・60) | 幹事 | 赤地 哲也         | (42・43) |
| 幹事 | 小野 武          | (30・31) | 幹事 | 辻井 哉子         | (60・61) | 幹事 | 深井 富雄         | (45・46) |
| 幹事 | 杉山 茂          | (30・31) | 幹事 | 沓間 恭子         | (60・61) | 幹事 | 河田 哲雄         | (46・47) |
| 幹事 | 根岸 元宏         | (31・32) | 幹事 | 佐藤 明美         | (61・62) | 幹事 | 西家 勝彦         | (51・52) |
| 幹事 | 加藤 三洲         | (31・32) | 幹事 | 鈴木三奈子         | (62・63) | 幹事 | 勝呂 千明         | (52・53) |
| 幹事 | 渡部 浩司         | (31・32) |    |               |         |    |               |         |
| 幹事 | 金沢 定徳         | (32)    | 幹事 | 荒木とよ子<br>(飯村) | (39・40) | 幹事 | 今関 邦彦         | (26・27) |
| 幹事 | 大村日出雄         | (32)    | 幹事 | 萩野谷 肇         | (41・42) | 幹事 | 加藤 晴俊         | (30・31) |
| 幹事 | 甲田 知由         | (33)    | 幹事 | 上田 定義         | (41・42) | 幹事 | 加藤 博昭         | (48・49) |
| 幹事 | 杉本 直志         | (33)    | 幹事 | 加藤 久貴         | (46・47) | 幹事 | 津田 正克         | (50・51) |
| 幹事 | 市橋 悟          | (34)    | 幹事 | 秋山 稔明         | (46・47) | 幹事 | 後藤 善夫         | (52・53) |
| 幹事 | 朴沢 英憲         | (34・35) | 幹事 | 前田 正丈         | (47・48) | 幹事 | 西島みゆき<br>(今井) | (52・53) |
| 幹事 | 吉野 洋一         | (35)    | 幹事 | 藤本 哲生         | (47・48) |    |               |         |
| 幹事 | 横田 晋朗         | (35)    | 幹事 | 野田 栄          | (47・48) | 幹事 | 遠藤日出夫         | (37)    |
| 幹事 | 鈴木 肇          | (35)    | 幹事 | 棚橋 敏彦         | (50・51) | 幹事 | 渡辺 博夫         | (37)    |
| 幹事 | 御供 政紀         | (35・36) | 幹事 | 小松真由美         | (51・52) | 幹事 | 江川 洋          | (42)    |
| 幹事 | 小沢 文郎         | (36)    | 幹事 | 矢崎 真治         | (53・54) | 幹事 | 藤幡 俊量         | (46)    |
| 幹事 | 大西 良雄         | (37)    |    |               |         |    |               |         |
| 幹事 | 小川 武司         | (37)    | 幹事 | 松嶋 絹江         | (54・55) | 幹事 | 松原 裕二         | (54～57) |
| 幹事 | 多田清太郎         | (37)    | 幹事 | 大石多佳子         | (57・58) | 幹事 | 井上 晶子<br>(賛川) | (54～57) |
| 幹事 | 坂口 正剛         | (37)    | 幹事 | 渡辺 桂子         | (60・61) | 幹事 | 山本 ゆか         | (58～61) |
| 幹事 | 小石川宣照         | (37)    | 幹事 | 片村 則子         | (61・62) | 幹事 | 後藤 幸江         | (58～61) |
| 幹事 | 谷崎 邦昭         | (38)    | 幹事 | 日吉みちよ         | (61・62) |    |               |         |
| 幹事 | 栗山 康雄         | (39)    | 幹事 | 角田 由美         | (62・63) |    |               |         |
| 幹事 | 両角 勇          | (42)    | 幹事 | 林 尚美          | (62・63) |    |               |         |

# 平成2年度 事業報告

## 1 三島同窓会長賞授与

平成2年度日本大学三島キャンパス在学学生から、次の者が推薦された。同窓会長賞（副賞記念品）は、短期大学部4名に贈られ、平成3年3月25日の卒業式当日（日本武道館）、授与式が行われ、同窓会長賞（副賞奨学金）は、国際関係学部3名に贈られ、4月9日の開講式当日授与式が行われた。

同窓会長賞（副賞記念品） 4名 齋藤陽子（文科国文専攻） 田伏正和（商経科二部） 吉村しげみ（商経科二部）  
稲葉 香（家政科食物栄養専攻）  
同窓会長賞（副賞奨学金） 3名 佐藤淳悦（国際文化学科） 犬塚重暁（国際文化学科） 野口 厚（国際関係学科）

## 1 会報発行

会報21号、平成2年11月3日付 8頁 3,000部を発行した。

## 1 各科同窓会等補助

(1)体育奨励会に対し、大学体育団体育成を目的に、110,000円を補助した。

## 1 常任幹事会

平成2年6月29日(金)18時から、国際関係学部8号館2階で開催した。

## 1 幹事会

平成2年6月29日(金)19時から、国際関係学部8号館2階で開催した。

## 1 総会並びに懇親会

平成2年11月3日(土)16時から、総会並びに懇親会を国際関係学部記念館で開催した。

平成2年9月、大場川流域の集中豪雨による学生アパート流失に伴う見舞金を大学を通じて渡した。

# 平成2年度 収支決算書

(平成2年4月1日～平成3年3月31日)

単位：円

| 支 出 の 部           |           |           |            | 収 入 の 部     |           |           |            |
|-------------------|-----------|-----------|------------|-------------|-----------|-----------|------------|
| 項 目               | 予 算 額     | 決 算 額     | 差 異        | 項 目         | 予 算 額     | 決 算 額     | 差 異        |
| 奨 学 費             | 170,000   | 118,746   | 51,254     | 会 費 収 入     | 1,335,000 | 1,348,000 | △13,000    |
| 学 園 歌 集 発 行 費     | 210,000   | 0         | 210,000    | 雑 収 入       | 785,577   | 915,660   | △130,083   |
| 同 窓 会 報 発 行 費     | 250,000   | 103,000   | 147,000    | 前 受 金 収 入   | 900,000   | 2,784,000 | △1,884,000 |
| 各 科 同 窓 会 等 補 助   | 730,000   | 200,000   | 530,000    |             |           |           |            |
| 総 会 並 び に 懇 親 会 費 | 450,000   | 390,000   | 60,000     |             |           |           |            |
| 会 議 会 合 費         | 300,000   | 237,177   | 62,823     |             |           |           |            |
| 通 信 運 搬 費         | 50,000    | 39,038    | 10,962     |             |           |           |            |
| 事 務 費             | 120,000   | 47,380    | 72,620     |             |           |           |            |
| 雑 費               | 300,000   | 57,240    | 242,760    |             |           |           |            |
| 予 備 費             | 500,000   | 0         | 500,000    |             |           |           |            |
| 計                 | 3,080,000 | 1,192,581 | 1,887,419  | 計           | 3,020,577 | 5,047,660 | △2,027,083 |
| 基 金 繰 入 額         | 0         | 1,100,000 | △1,100,000 | 基 金 繰 出 額   | 900,000   | 0         | 900,000    |
| 次 年 度 繰 越 金       | 900,000   | 2,814,502 | △1,914,502 | 前 年 度 繰 越 金 | 59,423    | 59,423    | 0          |
| 前 受 金             | 900,000   | 2,784,000 | △1,884,000 |             |           |           |            |
| 繰 越 金             | 0         | 30,502    | △30,502    |             |           |           |            |
| 合 計               | 3,980,000 | 5,107,083 | △1,127,083 | 合 計         | 3,980,000 | 5,107,083 | △1,127,083 |

# 貸 借 対 照 表

(平成3年3月31日現在)

単位：円

| 借 方     |            | 貸 方         |            |
|---------|------------|-------------|------------|
| 項 目     | 金 額        | 項 目         | 金 額        |
| 普 通 預 金 | 1,514,502  | 基 金         | 19,200,000 |
| 通 知 預 金 | 3,000,000  | 前 年 度 繰 越 額 | 18,100,000 |
| 定 期 預 金 | 17,500,000 | 本 年 度 繰 入 額 | 1,100,000  |
|         |            | 次 年 度 繰 越 金 | 2,814,502  |
|         |            | 前 受 金       | 2,784,000  |
|         |            | 繰 越 金       | 30,502     |
| 合 計     | 22,014,502 | 合 計         | 22,014,502 |

平成2年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成3年6月28日

会計監査 持 田 光 雄 ㊞  
同 中 島 敏 男 ㊞

# 平成3年度 事業計画 (案)

## 1 三島同窓会長賞授与 (副賞：記念品もしくは奨学金)

日本大学国際関係学部および短期大学部を平成4年3月に卒業・4月に進級の予定の者を対象とする。

国際関係学部 各学科3・4年生 各1名宛 賞状及び奨学金

短期大学部 各学科 2年生 各1名宛 賞状及び記念品もしくは奨学金

## 1 学園歌集発行予定

2,500部を発行し、平成3年4月と4年4月国際関係学部・短期大学部各学科および法学部三島校舎の新入生全員に対し、入学祝いとして渡す。

## 1 会報発行予定

会報22号 (平成3年10月) 発行 8頁 3,000部

会報23号 (平成4年 3月) 発行 8頁 3,000部

## 1 各科同窓会等補助

(1)各科の名簿編集の推進。

(2)大学体育団体に対する補助。

1 三島開設50周年記念に係わる事業について

1 記念館の整美要請について

1 常任幹事会

平成3年6月28日(金)17時から、国際関係学部8号館2階において開催する。

## 1 幹事会

平成3年6月28日(金)18時から、国際関係学部8号館2階において開催する。

## 1 総会並びに懇親会

平成3年11月3日(日)16時から、国際関係学部記念館で開催する。

# 平成3年度 収支予算書 (案)

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

単位：円

| 支 出 の 部       |           |           |           | 収 入 の 部     |           |           |           |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 項 目           | 本年度予算額    | 前年度予算額    | 増減 (△)    | 項 目         | 本年度予算額    | 前年度予算額    | 増減 (△)    |
| 奨 学 費         | 190,000   | 170,000   | 20,000    | 会 費 収 入     | 4,260,000 | 1,335,000 | 2,925,000 |
| 学 園 歌 集 発 行 費 | 270,000   | 210,000   | 60,000    | 雑 収 入       | 859,498   | 785,577   | 73,921    |
| 同 窓 会 報 発 行 費 | 250,000   | 250,000   | 0         | 前 受 金 収 入   | 2,700,000 | 900,000   | 1,800,000 |
| 各科同窓会等補助      | 620,000   | 730,000   | △110,000  |             |           |           |           |
| 総会並びに懇親会費     | 450,000   | 450,000   | 0         |             |           |           |           |
| 会 議 会 合 費     | 300,000   | 300,000   | 0         |             |           |           |           |
| 通 信 運 搬 費     | 50,000    | 50,000    | 0         |             |           |           |           |
| 事 務 費         | 120,000   | 120,000   | 0         |             |           |           |           |
| 雑 費           | 300,000   | 300,000   | 0         |             |           |           |           |
| 予 備 費         | 800,000   | 500,000   | 300,000   |             |           |           |           |
| 計             | 3,350,000 | 3,080,000 | 270,000   | 計           | 7,819,498 | 3,020,577 | 4,798,921 |
| 基 金 繰 入 額     | 1,800,000 | 0         | 1,800,000 | 基 金 繰 出 額   | 0         | 900,000   | △900,000  |
| 次 年 度 繰 越 金   | 2,700,000 | 900,000   | 1,800,000 | 前 年 度 繰 越 金 | 30,502    | 59,423    | △28,921   |
| 前 受 金         | 2,700,000 | 900,000   | 1,800,000 |             |           |           |           |
| 繰 越 金         | 0         | 0         | 0         |             |           |           |           |
| 合 計           | 7,850,000 | 3,980,000 | 3,870,000 | 合 計         | 7,850,000 | 3,980,000 | 3,870,000 |

## 『思い出の地、三島』

鈴木智子  
国際文化学科副手

私がこの三島にやってきて、今年で5年目になる。5年前の私は、あたり前のことだが高校を出たばかりのteenagerだった。三島で過ごした時間は、もしかしたら私の一生の中で一番貴重で、一番忘れられない思い出となるのかもしれない。teenagerから成人式を向かえ、20代突入という一つの転機をこの三島の地で経験したのだし、親元から離れて一人で自炊生活を始めたのも私にとってはおそらく貴重なことのように気がする。

ともかく、三島での大学生活、就職は、それまで故郷で過ごしてきた生活形態・時間の流れ方・学業のどれを取ってもそれらとは全く異なり、言ってみれば当時の自分にとっては革命的だった。すべてが新しく、時間のすべてが自分の物であり、教室に入れば、先生方は物事の結果報告をしているのではなく物事の理論、思想を述べていた。今でこそ、この生活に慣れたものの、大学時代は、いろいろな事に試行錯誤していた時だと思っている。

## 『国際関係と私』

鈴木智子  
国際文化学科副手

不思議なもので、自分の意識も次第に変わっていくような気がした。確かに働き始めて数カ月は、朝決まった時間に出勤して、決められた時間だけ仕事をし、定刻になると帰宅する生活パターンは、単純なものの、つらいものだった。そうした基本的な生活を積み上げていくうちに、おぼろげながら社会的責任、仕事に対する責任のようなものを感じるようになった。そうして、何となく今まで見えなかったものが見えるようになってきたような気がする。時々、同じ大学時代を過ごし、共通の時間を分かち合った友人たちのことを考えることがある。特に、職場で自分の無力さを痛感した時は、そうした友人たちと語り合ったりする。誰もが社会人一年目のつらさを感じているし、まだ学生時代とのギャップにとまどいを感じながらも新しい世界で地道な努力を始めている。そんな友人たちの姿を励みに自分自身をも励ましていくといった状態だ。それはまるで綱渡りをしているようにまだまだ危なっかしうて、すぐにも倒れてしまうように見えるだろう。しかし、私の周りにはすばらしい先輩たちが一人前の社会人として自分自身のカラーを出して活躍なさっている。

私もまだまだ未熟だが、すばらしい友人たちが励ましが、すばらしい先輩たちを見習いながら自分なりにがんばっていることと分っている。確実に自分の足で自分の道をふみしめられるようになるその時まで。そして三島での忘れられない貴重な思い出をさらにたくさん作りたいと思っている。

山崎理絵  
国際関係学科副手

『日本大学国際関係学部合格』の通知を手にしてから、早いもので5年近くの歳月が経とうとしている。振り返ってみると、三島キャンパスでの4年間の大学生活は、私にとって貴重なものであった。思考力の形成からみて、知的成長期の4年間は、人生に於て最も重要な時期であったと言える。また、国際人の育成を掲げている本学部での学習内容も、激動の世の中に置かれていく私達の、正しい状況を判断する上で強い味方となり得るものであった。他方、副手という現在の私は、本学部にて在籍していたからこそ存在していると言える。

私は瀬戸内海に面した、人口3,000人という小さな町で生まれ育った。そこは良く言えば古き良き日本の姿、つまり、今だに閉鎖的の社会で帰属意識が強いのが特徴という田舎町である。最寄の駅までバスで1時間、コンビニエンスストアは影もなく、夜も8時を回ると人通りも跡絶えしてしまう。隣接した島の中学校へは船で通い、高校へはバスで1時間かけて通学していた。この時点まででは私に国際的なものを感じさせるものはなく、私は少なからず広がりていく小さな自分の世界に満足していた。学校で英語を学んではいなかったものの、学ばなければならなかったであろう、実際に使う手段として考えたことなどなかった。高校2年生の時、友人と米軍のベースに行っていた。この日を起点として今の私が存在すると言える。この5月5日のベイス解放日に、私は初めて外国人と会話する機会を持った。私の拙い英語力では流暢な会話は望むべくもなかったが、最低限の単語と最大限のジェスチャーで私の意志は通じていた。この体験は私にある種の自信と、興味を芽生えさせた。幸い高校の近くの教会に外国人の家族が越して来たもので、放課後や休日によく訪ねたものである。世界は広いと同時に近くに存在し、自分から手を伸ばせば届く範囲にあるのだと感ずるようになっていた。この頃から、国際関係というものに、ひかれていく自分を意識したのであった。

さて、大学に入り私の世界は物理的距離は勿論のこと、生活面でも広がっていった。閉鎖的の社会の一員であった時は、自分が主張しなくともアイデンティティーは認められていた。新しく未知の場所では自分のアイデンティティーを見直す良い機会を与えられたと言える。自己発見、自己反省は人間の成長に良い影響を与えた。また、海外研修に行った時にも上記のことが同様で、しかも強調されて起こった。1年次は自己理解、知識が及ばず実りある研修とは言

## 『国際関係学部で新しいスタートをきって』

内藤伊都子  
AVセンター副手

大学を卒業して、早くも半年が過ぎようとしている。就職で三島を離れた人は多いが、私は相変わらず、日本大学の門をくぐっている。なんといっても、付属高校時代を含め、この三島キャンパスへ通うのは今年で8年目を迎えてしまったのである。その間、バイリンガルな国際人を夢見る学生から、そんな学生を見つめる副手へと立場が変わった。

えなかった。3年次に再び、知識を深め、下準備をしてから研修に行った。日本についてなど普段考えることのない問題についても深く考えさせられ得るものは多かった。この海外研修こそ私達が大学で学んだことを実践的な場であった。語学のみならず知識も必要だからである。国際問題解決には程遠いが、外国人の日本への誤認識を市民レベルから解消していく事が案外近道となるかもしれない。これは同じ日本人同士でも同様である。つまり、私は国際関係を学んできたことにより、学術的な点のみならず、人間にとって何が大事かということ等も同時に学んだと思っている。

私の人生において4年というのは時間的には長くはない。しかし、大学時代の4年というのは、凝縮された内容の濃いものである。私の人生はまだまだ長く、現時点では歩んできた道のりは短い。また、これまでは言わば他人が舗装してくれた道を歩んできた様なものである。これからは、社会という荒野を自分で開拓し、一步一步踏み締めて行かなければならない。その時、この4年間の心強い同僚者となり励ましてくれるであろう。

引き継ぎの3月。AVセンターの副手として、いよいよのスタートであった。先任の先輩と共に、桜が咲き乱れるキャンパスを挨拶周りに出かけた。紹介される度に、副手になったんだという実感が沸き、見慣れているはずのキャンパスも新鮮に思えてきた。初めて白衣を着た時のことは、今でも忘れられない。糊の利いた新しい白衣が、身体に馴染まず、ひどくこ

ちなかった。

入学、新学であわただしい4月。キャンパスが一年で一番賑わう時。新入生に混って、サークルのビラを手渡されたこともあった。開講式が終ると、新入生の英語実力試験という、A・Vセンターにとって大きな仕事が続いてきた。言わゆる英語のクラス分けテストで翌日には始まる授業に合わせるべく、準備をしなければならないが、準備もさることながら、その処理に、とにかく目まぐるしい一日となった。

授業のサイクルにも慣れていた5月。この頃になると、A・V教室や映写室の機械の操作を実践するようになった。授業中、音が出ない、画面が乱れる、パワーが入らない、テープが出ない、録音出来ないなどと、次から次へと押し寄せるアクシデントに立ち向かっていった。先生方や学生からの視線を浴びながら何度か試みてはみるものの、操作ミスなのかそれとも、機械との相性が悪いのか、結局は先輩方の力をお借りするはめになるという毎日だった。

ようやく緊張がほぐれてきた6月。英検の試験監督に立った。学

## 『大学時代、卒業、そして副手となって』

遠藤 紀子

文学科副手

私が短大福手としてこの三島キャンパスに通い始めて、半年が経ちました。思えば、初めてこのキャンパスに入ったのは、高校一年生の時でした。以来七年半の間、私は高校生から大学生そして副手と、立場を変えながらここに通い続けています。自分の中ではとても早かった七年半だった気がしますが、今の高校生を見ると、やはり自分の高校時代は既に懐かしい思い出に変わってしまったように思います。

生となるべく目を合（あ）いようにしてきた4月の英語実力試験当時と比べると、今回は少し余裕があった。学生時代には見えなかった副手の仕事がいかに多いかわかり始めたのもこの頃であった。機械の操作は勿論、教材の編集・管理、先生方から依頼された仕事、委員会の幹事、A・Vセンターの管理と、僅か2・3年でずっかかりやりこなしてしまっている先輩方が、私にはとても大きく見えた。

研修会が行われた7月。夏休みを前に、今一度、副手としての仕事と自覚を認識する良い機会であった。又、休み中であるにもかかわらず、毎日自習室へ通う学生がいることは私達の励みとなった。

例えば、付属高校から国際関係学部への面接試験の時緊張でいっぱいだったのが、白衣を着たお姉さん（副手）の最初の出逢いで副手となり新入生を迎えることになるなんて、その時の私は夢にも思っていなかった。しかし今、この国際関係学部を、学生と副手という立場から二度味わえることを私は幸せに感じている。

今年の三月まで、私は国際関係学部の学生だったのですが、大学生としての四年間は大変充実していました。何よりも、初めて触れたフランス語はとても興味深く魅力がありました。私は第一外国語としてフランス語を選択していたのですが、国際では語学の授業時間が多く、大学生になって初めてフランス語に取り組み事になった私も、戸惑うことなく、勉強する事が出来ました。三年生の夏には、語学研修に参加する為初めて

パリへ行きました。この時の語学研修は、私に大きな刺激を与えてくれました。何よりも、二年半大学で勉強してきたフランス語が、パリでは全く思うように話せなかった事が、とてもショックでした。これによって、私は一層フランス語に夢中になり、今までよりもっと真剣に勉強しようという決心することになりました。

また、この研修によって私は旅行に対しても、大きな魅力を感じようになりました。お金を掛けず、長い間自分のペースで、自分の好きなコースを回るといふ旅行です。ユースホステルに泊って、違った国の同じ年頃の人達と片言の英語やフランス語を使って話す事がとても楽しく、気持ちを通じた時の喜びはとても大きなものがありました。

学校では、部活動にもサークル活動にも参加していませんでしたが、私なりに好きな事をやって過ごせた4年間は、本当に素敵な日々でした。

四年生の秋、日大への就職が決まりました。希望していた副手としての採用でした。その時は、就職が希望通りにいった喜びと安心感で卒業後の自分に大きな期待を持っていました。しかし、実際に卒業の時期が近づいてくると、私のような人間でしつかりやっていくのだろうかという気持ちと、しつかりやっていかなければならないという気持ちで、期待は不安へと変わっていききました。国際関係学部の学生だった私にとって、短期大学部は未知の世界のように思えました。それに加え、私が入る事に決まっていた英文研究室は、前任の副手の方が二人揃って今年の三月末日で辞めてしまい、四月からは新任の私達だけで仕事をしなければならい状態でした。短大の研究室での仕事に関する予備知識が全く無かったので、必要以上に緊張して四月を迎えました。

しかし、実際に仕事に就いてみると、それほど持っていた緊張感や不安感は逆に和らいでゆきました。初めに顔を合わせる英文の先生方は、私達が少しでも早く仕事を慣れるようにと、良いアドバイスを下さり、また事務所の方や他の研究室の副手の方は、「わからない事は何でも聞いてね。」と親切に声をかけて下さり、私達もその言葉を頼りにしてやってきました。

九月いっぱいまで前期が終わり、一応何とか半年は過ぎたものの、仕事が大変になるのはこの

## 『一九八九年の夏のこと』

加藤 よう子

文学科副手

私が三年生だったその年は、フランス革命から二百年目にあたった。その年の七月十四日をパリでむかえることを、私と友人の遠藤紀子は計画した。大学の研修旅行もあったが、私達は二人だけでパリへ向かった。

当時の私の語学力は、フランス語、英語共に非常に乏しかった。一外を仏語にして丸二年勉強した後だというのに、情けないことに使えた言葉といえば、「こんにちは、さようなら、ありがとう、すみません、知らない、わからない、できない、」が欲しい、私は日本人です、学生です、これは何ですか、いくらですか、だけだった。しかし、これだけでもなんとかなった。

オルリーに着き、一泊目のホテルに向かい、チェックイン。次の日のチェックアウト、大学都市のドイツ館への入寮、パリ・カトリック大学の夏期講習の申し込み、試験。そして下から二番目のクラスに入るところまでできたのだ！毎朝、RERとメトロを乗り継いでレンヌで降りて学校へ通った。私の担任はエリザベット先生で、

先です。後期は、色々な行事があり、仕事の内容もより濃くなり量も増えることと思います。今年度一年間は、他の副手の方達に色々教えていた大きなが、なるべく失敗の無いように仕事を進めたいと思います。そして教えていただいた事は、一度で覚えて来年度からは自分で進んで動けるように努力していくつもりです。一日でも早く前任の副手の方に追いつけるように、また研究室をより良く出来るように先生方に意見を出していただいてそれを参考として私達もがんばっていくつもりです。

下から二番目のクラスではあつたが、みんなとてもフランス語を話す。文法は苦手らしいが積極的に質問する姿勢には驚いた。知らない単語が出てくると私は辞書を開くが、みんなは直接先生に尋ねる。

ある日のこと、「timide」という単語を誰かがわからないと言った。知っている人がささず「Yoko、のことだ！」と言った。その単語の意味は「内気な、おとなしい」である。私も洋子ちゃんも本当におとなしかった。私達のどちらかが指名されて発言する時、教室中は静かになる。前の方に座っている人もこちらに向き直る。「Yoko」が発表するぞ」という期待の目。見守る目。発表し終った時、

拍手がおきたこともあった。  
十日が過ぎた頃には、友達もでき、気持ちに余裕が出てきた。建物や絵画のために息をつき、質素だけれどおしゃやれなフランス人のファッションを勉強し、バゲットやコーヒのおいしさに感動し、エスカレーターでは右側に寄ること、ドアは次の人のために持つてあげること、"Merci" "Pardon" "Bien" をすぐ口にすることも知ったし、できるようなった。ドイツ館から見える灯りがエッフェル塔の先端だと知ったのも、パリの人の真似をして長かった髪を肩につかないくらいまで切ったのもこの頃だった。

そして待ち続けた革命記念日。私達はジャンゼリゼへ出かけた。パレードと花火を見るために。ジャン・ポール・グードという人がプロデュースしたこのパレードは、とにかく大掛かりで奇想天外で生でやっているとは信じられないスペクタクルだった。フランスからはトリコロールの旗をつけた千人ぐらゐの太鼓叩き。イギリスからはバグパイプや太鼓奏者、ダンスが数百人。ロンドンの雰囲気を出すために霧がまかれた。ソ連は雪を降らせる中、アコーディオン、アクロバット。続いてスケートをする女性は大赤い旗を持っていた。アメリカは数百人のフロリダ・マーチング・バンドがムーン・ウォークで通り過ぎた。中国勢は「民主自由」と書かれた大きな赤い旗を振っていた。アフリカからはドラム缶のピラミッドをかこんでタムタムの大合奏とダンス。

日本大学の職員になり半年が過ぎようとしています。三島で生活

そして私が一番気に入ったパレード。その他いろいろな国というところだと思うが、黒い大きなスカートを着た女性がさまざまな国旗を持った子供を抱いてくるくる回転しながら進んでいった。日本の子供は鎧を着ていた。パレードがコンコルド広場へ着く頃、J・ノーマンと大合唱団が「ラ・マルセイエーズ」を高らかに歌った。次々と休みなく打ち上げられた花火は、ピンクや青やさまざまな色に凱旋門を染めた。言葉にできない感動とショックを同時に味わい、本当にパリに来てよかったと思つたし、二百年前の革命は現在の世界中の人々のためだったのだと思つた。

一ヶ月の語学研修を終える頃、ドイツ館で部屋の近かつたドイツ人が「君のフランス語は以前よりとても上達したね。」と言ってくれた。うれしくてうれしくてたまらなかつた。学校からは修了証書をいただいて無事に研修を終えた。そのおぼえをたての仏語を持って、私達はイタリア、ギリシャ、スペイン、イギリスを旅した。フィレンツェやロンドンにも魅せられたが、やっぱり何と言ってもパリが一番。パリほど、私の目覚まし、成長させ、自信を持たせてくれた街はない。こんな一九八九年の夏が去って丸二年経ったが、小さな出来事でさえ何一つ忘れずに今でもよく思い出してしまふ。本当に素敵な夏だった。

## 『三島キャンパスと私』

久保和之

会計課勤務

を始めてから、かれこれ三年半です。四月に開講式をへて、三

島での生活が始まったのです。大学生生活での期待と不安、親から一人はなれて生活する期待と不安が入り交じり、とても複雑な気持ちだったことを覚えていてます。新入生は、皆その様な気持ちでしょう。そんな私たちを、三島キャンパスはとても暖かく迎えてくれました。新しいスーツに身をつつんだ新入生、それらを、新緑の三島キャンパスが包みこんでいる様です。職員となり、毎年この光景を目にし、思ひ出します。

二年生となり、卒業を控えた頃、まだ卒業後の進路が決まっていなかった私に、臨時職員の話しがありました。私は藁にもすがる思いで、その話しを載きました。進路が決まっていなかった、ということもありましたが、三島での生活がたつた二年間では物足りなかつたという事もあつたと思います。甘い考えかもしれないですが、三島という街やキャンパスが過ごしやすく、気に入っていたのです。今年の四月からは、正式な職員となり、配属も国際関係学部であつた為、引き続いて三島キャンパスで働いています。毎年違う立場で三島キャンパスにいるわけですが、季節が変わりなくやって来る様に、キャンパスも、変わりなくいろいろな

## 『三島にて』

初めて日本大学の門をくぐったのは六年前のことでした。中学校と比べあまりにも広い敷地と、雨のように降ってくる桜並木の花びらを見て、「こんな学園ドラマのような学校で高校時代を過ごせるのか。」と期待に胸をはらせて入学式に臨んだことを憶えています。

表情を見せてくれます。キャンパス内の木々が青々としてくれば、春が来たか、セミが鳴き出せば夏だ、木々が赤く染まってくるのも秋なんだ、冬も近いなと、四季をキャンパスで感じています。このように、水と緑の街三島と同じように、キャンパスも小さいながらも自然が多く見られます。このような環境で学生生活を送ることができ、そして、働くことができて、よかったと思つています。この環境をいつまでも残し、私達の後輩達が、良い学生生活を送れるようにしていきたいと思つています。

私は、商経学科の二部の学生でした。夜の六時から九時までが講義でした。教室は十三号館の三階から四階を使つていました。この教室からは、富士山が良く見え山を見ながら受ける講義は、格別でした。ご存知の方は少ないと思いますが、新築された十四号館五階からは、遠く沼津の海まで見えます。このように山や海に囲まれた場所が青春時代を送れたことに感謝します。そして、この三島キャンパスがいつまでも自然の残つた、活気あるキャンパスであることを願っています。

## 吉村しげみ

庶務課勤務

女子高のような雰囲気と校内の四季折々の自然に包まれて、本当に温室のような生活でした。その頃の私は将来何をしたいかなどという具体的な考えもなく、ただ何となく三年間が過ぎたように思います。四度目の春を迎える頃同じキャンパス内で、同は大学の職員、夜

は大学生という高校時代とは全く違う生活がスタートしました。半分学生ながらも、職員として学校の裏方役の仕事をしてみて、学生が普通に勉強できるような環境にする為に何人もの影の力があることを知りました。最初のうちは、慣れぬ仕事と夜の学校で本当にこのままだと不安でいっぱいでしたが、クラスメイトや職員の方々にはげまされ、つたないながらも一生けんめいがんばつたつもりです。就職指導課という、学生の就職相談を受けおう場所でも働いたという事は本当に勉強になりました。

学内関係者ばかりでなく、一般企業の方々と接する機会が多い為、いろいろな情報を知ることができました。又、公文書作成の為に必要にせまられて、ワープロを習い始めたのもこの頃です。就職課の方々が、学生の相談に一生けんめいに対応する姿を見て、自分も人の為になるような仕事をしたいんだな、と思えたからこそ、二年間の生活が続けられたような気がします。

そして今年の春、大学の職員として正式に採用していただき半年が過ぎました。現在は庶務課の2F受付で勤務しています。

お茶の入れ方、資料整理などにしても学生職員時代とはまるで異なり、半分学生だからということでも甘やかされていた部分が本当に多かったんだなと、今改めて痛感しました。

表立ったような派手な仕事ではないけれど、先生方に気もちよく仕事をしたい、と心から思っています。最初先輩に教えていただきました。失敗だらけで、周りの方々に迷惑ばかりかけていますが、早く仕事に慣れるようがんばりたいと思います。